

小学校社会科における指導上の課題と授業改善のポイント ～「みやざき小中学校学習状況調査」の分析を通して～

機 関 名（宮崎県教育研修センター）

職・氏名（指導主事・佐藤寿哉）

1 「みやざき小中学校学習状況調査」について

本県では、『伸ばそう学力・高めよう授業力』学びの支援事業において、児童生徒の学習内容の定着状況を基に、授業改善を推進するシステムの充実や課題を踏まえた実践的な研修会を実施している。このような学力向上マネジメントサイクルを強化することで、教員の授業力を高め、児童生徒の学力を伸ばすことを目指している。「みやざき小中学校学習状況調査」は、本事業の重要施策の一つとして実施しており、全国学習状況調査とともに、本県の児童生徒の学習状況を把握する上で重要な調査である。現在、本県が実施している学習状況調査の概要については次の通りである。

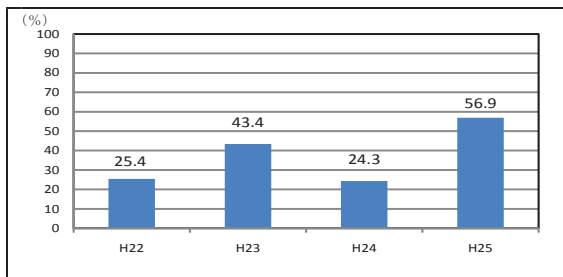
名 称	みやざき小中学校学習状況調査
目 的	児童生徒の学習の定着状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証する。また、学校における学習指導の充実・改善等に役立てる。
実施期日	4月
対象及び調査内容	小学校第5学年：国語、社会、算数、理科（小学校第4学年までの内容） 中学校第2学年：国語、社会、数学、理科、英語（中学校第1学年までの内容）
調査問題	A問題（20問）：基礎的・基本的な知識・技能の定着状況をみる。 B問題（5問）：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力をみる。

2 本県における小学校社会科の現状と課題

ここからは、小学校社会科に焦点を絞り、学習状況調査の分析を通して、「教科全体」、「観点別」、「領域別」、「分類別」、「設問別」にみられる現状を把握し、課題を明らかにする。

(1) 現状

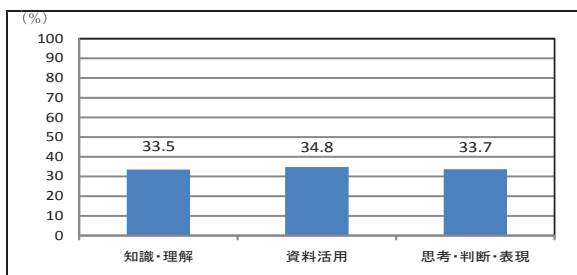
◆ 教科全体における達成率の年度別推移（平成22年度～平成25年度）



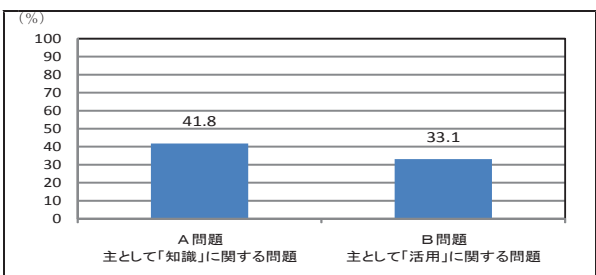
※ 県内の児童（含特別支援）を対象にした調査であることや年度によって問題が異なることを踏まえ、「達成率」を目安にして、状況をつかむことにする。

「達成率」… 到達度（正答である問題数の割合）が目標値（問題ごとに設定されためざす値）に達している児童生徒の割合を表したもの。

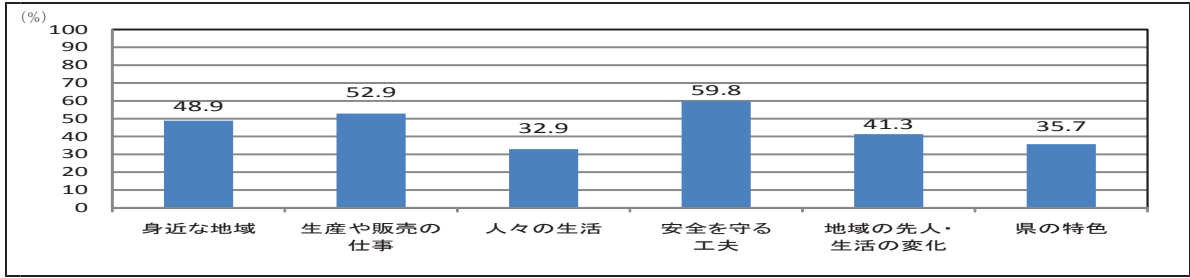
◆ 観点別達成率（過去4年間の平均値）



◆ 分類別達成率（過去4年間の平均値）



◆ 領域別達成率（過去4年間の平均値）



◆ 主な設問ごとの到達度

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
地図記号		警察署 (49.0%) 果樹園 (58.8%)	病院 (88.9%) 消防署 (83.4%)	寺 (86.5%) 畑 (55.2%)	果樹園 (88.7%) 消防署 (88.1%)
方位	四方位			48.4%	78.3%
	八方位	52.6%	54.8%		61.7%
都道府県の名称と位置		大分県 (82.9%) 選択 神奈川県 (62.9%) 選択 兵庫県 (63.8%) 選択	北海道 (88.8%) 記述 大分県 (71.4%) 記述 東京都 (55.1%) 地図 滋賀県 (43.0%) 地図 長野県 (43.0%) 記述	広島県・愛媛県 (32.6%) 選択	福島県 (74.8%) 選択 福岡県 (54.3%) 記述
グラフの変化の読み取り		36.2%	41.6%	28.9%	43.8%
社会的事象の説明や理由等の記述問題の平均到達度 ※ () は無解答率		34.1% (22.4%)	40.0% (23.1%)	33.6% (22.8%)	47.3% (9.4%)

(2) 課題

- ・ 教科全体の達成率は、年度により差が見られる。平成25年度の達成率は50%を越えた。
- ・ 観点別達成率では、3観点とも同じような達成率になっている。3観点をバランスよく指導し、全体的に学習内容の定着を図っていく必要がある。
- ・ 分類別達成率では、**B問題（主として「活用」に関する問題）にやや課題がみられる。**
- ・ 領域別達成率では、「生産や販売の仕事」「安全を守る工夫」の領域において、良好な結果がみられる。一方で、「人々の生活」と「県の特徴」などの領域には課題がみられる。
- ・ 地図記号に関する問題では、年度ごとに改善がみられる。田と畑等の間違いやすい地図記号については、繰り返し指導する必要がある。
- ・ 方位に関する問題では、特に八方位に関する問題に課題がみられる。
- ・ 都道府県の名称と位置に関する問題では、地図上で分かりやすい位置や隣接する位置にある都道府県の到達度が高い。その一方で、複数の都府県と隣接する位置にあるものについては、課題がみられる。
- ・ グラフの読み取りに関する問題では、グラフの数値を正確に読み取ることはできるものの、「どれくらい増えたか」「何倍になったか」等の変化の読み取りには課題がある。
- ・ 社会的事象の説明や理由等を記述する問題では、他の問題に比べて到達度が低く、無解答率も高い傾向がみられる。

3 小学校社会科における授業改善のポイント

「みやざき学習状況調査」から現状と課題を把握し、それらを授業改善に生かすことが児童生徒の学力向上につながる。ここでは、上記で課題がみられる領域や分類の中から以下の具体的な問題を取り上げ、小学校社会科における今後の授業改善のポイントを整理する。

I	領域別の課題：「人々の生活」	（平成24年度実施	大問4
II	領域別の課題：「県の特徴」	（平成24年度実施	大問2
III	観点別の課題：「B問題」	（平成25年度実施	大問7

I 領域別「人々の生活」(平成24年度実施 大問4)

4 はん ごみをへらす! 2024年6月6日

「この2つのグラフから何を見てな?」が生まれました! 宮崎県 2024

わたしたちの学習目標

わたしたちの予想

市販の取り組み

未来のために準備しよう

ごみを減らすにはどうしたらいいか

① ② ③

ごみへらすのは、市が中心となってごみを減らす計画を立て、スーパーマーケットもその一環で市民の人々を呼び込んでごみを減らす努力をしています。2020年に、1970年からの20年間で、約(3)万トン減っています。スーパーマーケットの取り組みも、ごみを減らすのに役立っています。

- (1) 2つのグラフを見て次のような話し合いをしました。次の会話の(1)~(3)に最もあてはまる数字を、下の□からそれぞれ1つずつ選んで書きましょう。
- なおみさん: 1970年に(1)万人だった人口は、20年後に(2)倍になっているね。
まさし君: 1970年からの20年間で、ごみの量は、約(3)万トン減っているよ。
かおりさん: 2000年から2010年にかけては、ごみの量が減っているね。
- 2 8 12 17
- (1) 28.9%
- (2) 24.4%
- (3) 51.0%
- (4) 32.2%

III 観点別「B問題」(平成25年度実施 大問7)

7 ようこさんは、「高専前線市に在住の友だちから、「豊岡市の特色」についてまとめた資料」をもらいました。あとの1, 2の問いに答えましょう。

資料1 豊岡市の特色をまとめた資料

コウノトリを育てるまち・豊岡市

豊岡市では、国内で初めてコウノトリを外国からゆずり受け、人の手で育ててから、自然に帰す取り組みをしています。

豊岡市は、コウノトリが生活する上で必要な豊かな自然にめぐまれています。豊岡市のみならず、コウノトリをそっと見守り、コウノトリがくらしやすい自然かんさようをつくっています。

コウノトリは、主に田に生息する生き物をえさにするので、農家では農薬を減らして育てています。このように、農業をへらしてつくった米などの農産物が、今は豊岡市の特産品になっており、たくさんの方が買われています。

大空とコウノトリは、わたしたちのまちのほりこです。

1 ようこさんは、豊岡市が兵庫県のあるのか地図でたしかめることにしました。

資料2 兵庫県の地図

地図の「さきん」を調べると、次のようにしめされています。

とよかし豊岡市(兵庫) 5.0 1.1

1 59.2%

2 ようこさんは、豊岡市と宮崎県内のいろいろな特色ある地をくらべてみることにしました。下の資料3は「綾町の特色」についてまとめた資料です。

資料3 綾町の特色をまとめた資料

果樹園のまち・綾町

綾町は、自然がゆたかなところです。「果樹園」は世界の中でも貴重な自然としてみとめられています。

当時、町長だった藤田實さんをはじめ、町の多くの人たちは、綾町の果樹園が切られそうになった時、一生けんめい山を守りました。今では、綾町のみんなで果樹園を大切に守っています。

綾町では、よりおいしく、より安全な農作物が作られています。買う人にとって綾町の農作物は、大変よろこばれています。

綾町では、ゆう大な自然の中で走るマラソン大会が行っており、毎年たくさんの方が参加しています。町の人ががびんがびんとして参加したりするなど、町をあげて大会を盛りあげています。

ようこさんは、資料1の豊岡市と、資料3の綾町のまちづくりの特色をくらべたと、にていると思いました。下の□に「にていると思った理由」を、「大切」「協力」という2つの言葉を使って書きましょう。

わたしは、「豊岡市」と「綾町」のまちづくりの特色は、にていると思いました。それは、どちらも

特色あるまちづくりをしているからです。

II 領域別「県の特徴」(平成24年度実施 大問2)

2 まこと君は、宮崎県に遊びにくるとこのまをおおむかえに、宮崎空港まで鉄道でお父さんといっしょに行くことになりました。あとの(1)~(4)の問いに答えましょう。

資料1

お父さん、まだから見えないのは何というの?

この海は(1)というんだよ。

反対側のまからは、ビルハウスがたくさん見えるよ!何を見てるんだま?

このあたりでは、生産量全国1位の(2)がとられているよ。

なるほど、まさお君にも宮崎県のことをいろいろと教えてあげたいな。

それはいい考えだね。宮崎空港まで、まだしばらく前に進むよ。

(1) まこと君とお父さんが会話をしているのはどの場所、資料1のA~Dのうちから1つを選び、記号で答えよ

(2) 会話中の(1)、(2)にあてはまる言葉を次の□の中からそれぞれ1つ選んで書きましょう

(3) 宮崎空港に着いたまこと君は飛行機を見たまこと君が飛んでいるのを知りたくなり、受付の方に尋ねた。まこと君は、下の□から選んで書きましょう。

資料2 宮崎行きの飛行機が飛んでいる都道府県

今、まこと君は、北九州、福岡県、佐賀県、熊本県から飛行機が飛んでいますが、以前は次の都道府県からも飛行機が飛んでいました。

【宮崎行きの飛行機が飛んでいた都道府県】

北海道、青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、徳島県、香川県、岡山県、広島県、山口県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県

(3) 32.6%

資料3は、以前は宮崎行きの飛行機が飛んでいた都道府県の色をぬった地図ですが、色をぬいていく県が2つあります。その2つの県名を書きましょう。

(4) まこと君の下の欄のように、宮崎県内の似たりや文化を生かすまちについてまこと君に教えてあげよう。次の資料3~5から1つを選び、選んだ資料に最も関係のあるまちを、下の□から選んで書きましょう。

資料3 実写 資料4 産物 資料5 古石

宮崎県 小林立市 都城市 綾町市 日向市 日向市 日向市

(4) 55.9%

ア 問題解決的な学習を重視

Iの問題では、2つのグラフから疑問をもち、学習問題を設定し、予想を立て、具体的に調べてまとめるといった一連の学習の流れを示した問題構成になっている。小学校社会科の基本的な学習の流れとして、児童が自ら課題をもち、主体的に調べていくことができる問題解決的な学習を進めることが大切である。特に、授業の導入では、児童に「あれ?」「どうして?」と思わせるような資料等を提示し、児童の興味や関心を高めたり、児童が追究すべき問題を明確にし、学習の見通しをもたせることがポイントである。

イ グラフから変化を読み取り、その背景を考える学習を重視

Iの(1)は、グラフの変化を読み取る問題である。これまでの分析からも、グラフの変化を読み取ることに課題があることが分かっている。グラフが示しているものは何か、どのように変化しているかを確実に読み取ることができるように、グラフの読み取りの視点などを具体的に指導することが大切である。また、変化から背景にある社会的事象を、資料やグラフ、生活経験等に照らし合わせながら「思考・判断・表現」する学習活動を行っていくことを重視していく必要がある。

ウ 地域における社会的事象を活用した学習を重視

IIは、県の特徴についての問題である。本県では、このような地域素材を題材にした問題を多く出題している。これは、授業に地域素材を積極的に活用してほしいというメッセージでも

ある。見学やインタビューといった調査活動や資料活用を通して、県の位置や地形、産業面等からの特色を具体的に理解させる必要がある。また、教科書に掲載されている社会的事象や資料等のみならず、教師自らが地域素材に関する資料を収集したり、教材化したりするなど、指導内容や指導方法を工夫し、分かる授業を行っていくことが大切である。

エ 地図の積極的な活用を重視

学習指導要領では、新たに「我が国における自分たちの県の地理的位置」や「47都道府県の名称と位置」が加わったことを受け、問題Ⅱの(3)が出題されている。この問題に関しては、地図を活用しながら様々な課題に応じて調べたことを白地図にまとめたり、方位や距離などを確かめたりする学習内容が十分に定着しておらず、地図を活用した指導の充実を図るとともに、地図索引等も活用しながら、児童が自ら積極的に地名や場所を調べることができるような手立てを講じることも大切である。

オ 自分の考えの根拠を資料から読み取り、表現させる学習を重視

社会科の活用問題として、「資料から推論・比較・関連させ、自分の考えを表現する」問題が出題されている。また、Ⅲの2は、2つの資料の比較を通して共通することを見だし、相手に分かるように自分の考えをまとめる問題である。分析結果から、身に付けた知識や技能を結び付けるところに課題があり、授業の中でも、資料を基に自分の考えや立場を図や文章で表現する言語活動を充実させることが大切である。

カ 社会的事象を、帰納的、演繹的にとらえる学習を重視

社会科の問題の中には、児童が初めて目にする資料等を扱う場合がある。このような場合、与えられた資料をしっかり読み取り、知識や経験等を結び付けて結論を見いだす力を身に付けておく必要がある。例えば飲料水、電気、ガスの確保に関する学習では、このうち1つを選択して取り上げて学習することになっている。授業では学習していない「電気」の問題が出されたとしても、「飲料水」で学習したことを生かして問題を解決できなければならない。つまり、社会科の学習においても、複数の社会的事象から結論を見いだす「帰納的」な考え方や、一般的な原理から個々の事象について考えていく「演繹的」な考え方を日常的に育てていくことが必要である。

4 授業改善に向けた取組

(1) 学習状況調査分析に関する情報発信

本県では、毎年、実施した学習状況調査の分析結果及び課題、指導改善のポイントについて、Web上で発信している。本年度は「学力向上のためのヒント(おうちの方へ)」も併せて掲載し、学力向上への取組に係る家庭との連携強化を図っている。

(2) 研修等での活用

学習状況調査の分析結果を基に、本センターでは行われている教科等の研修を実施し、授業改善に具体的に役立ててもらおうようにしている。また、本センターの指導主事が各市町村を訪問し、授業改善に関する研修会(研修サポート)も実施している。

(3) リーフレットの作成

学習状況調査や学習指導要領の趣旨等を踏まえ、「小・中・高の系統性を踏まえた授業のポイント」(右は一部)を作成し、各学校へ配付するとともに、一貫教育の充実にも取り組んでいる。

5 成果と課題

(1) 成果

- 系統的に分析することで、より本県児童の学習状況の現状と課題の傾向を明確にすることができた。
- 分析結果を基に研修を実施することで、授業改善のポイントが明確になり、各市町村や各学校における研修が充実してきている。

(2) 課題

- 結果だけでなく、問題構成等に係る分析を各学校が主体的に取り組む手立てが必要である。

小中高の系統性を踏まえた授業のポイント(社会科)

子どもたちにとって知的におもしろい社会科授業を
 ～「確かな学力」を育成する社会科授業をめざして～

ポイント1 「習得・活用・探究」を意図した単元の指導計画を立てる。

児童生徒に社会的な見方や考え方を育成するために、「習得・活用・探究」を意図した指導計画を立て、輸入すること考えさせることを明確にすることが大切だ。

【1単元における指導計画の概要】

習得 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	活用 理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力を育成する。	探究 活用する力を基礎として、実際に課題を探究する活動を行う。
--------------------------------------	---	---

習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用し、探究することによって、さらに習得が促進されます。

ポイント2 「問題解決的な学習」を中心とした学習過程を工夫する。

(1単元時間の授業展開のポイント例)

	授業で心がけたいこと
導入	習得の確認 ○ 小テスト等を活用して、前時の基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を確認する手立てを工夫する。 関心・意欲を高める工夫 ○ 実物教材等を効果的に提示し、「なぜ?」と疑問をもたせるような導入を行う。
展開	追究したくなる学習問題 ○ すぐには答えが導き出せないような、学習意欲を高める学習問題を設定する。 ※ 「～しよう」ではなく「なぜ～だろうか」が基本! 作乐的、体験的学習 ○ 観察や調査、資料の活用にかかわる技能を系統的に指導する。 言語活動の充実 ○ 習得した基礎的・基本的な知識や技能を活用し、「説明」、「論述」、「解釈」、「判断」、「読み取り」、「表現」などの言語活動を行う。 授業の構造化(児童生徒の学び) ○ 1単元時間の板書から、その授業の構造が見えるようにする。
終末	学習のまとめ ○ 必ず、学習問題の解決につながるまとめを行う。 習得の確認 ○ 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得を確認する手立てを工夫する。